

市政ピックアップ②

中橋の架け替え

2024年10月1日より、中橋の架け替えに伴う通行止めが始まります。通行止めは、令和10年春頃までの予定です。

◎仮設通路(仮橋)の設置

自動車・バイク・原動機付バイクは現在のような通行ができなくなりますが、歩行者と自転車については仮設通路を設置します。仮設通路は令和6年12月上旬から令和7年春頃までで、その前後は三連アーチの橋を通路として使用します。

◎新設踏切

現在の宝来社街道踏切のすぐ東側に、車の通行も可能となる踏切を設置します。2024年の冬頃から線路内工事が始まり、翌年春頃の開通を目指しています。

◎エレベーターの設置

架け替えにより、橋の北側が高架構造となるため、地域からは誰もがスムーズな移動ができるようにエレベーターを設置してほしいとの意見がありました。それを踏まえ、エレベーターの設置が決定しました。場所は検討中です。

◎東武足利市駅北口

橋の南側では、堤防のかさ上げに伴い橋が現状より約4m高くなることで、東武足利市駅北口駅前広場との間に段差が生じます。駅から中橋方面への分かりやすい歩行者動線の確保が必要となるため、駅の利便性向上のため、駅前広場の再整備に向けた検討を進めていきます。

先進的な取り組みの視察 静岡県藤枝市「予算・決算審査の常任委員会化」

藤枝市では、令和5年より予算・決算を常任委員会化しています。足利市では9月議会に決算審査が2日間ほど行われますが、藤枝市では6月に決算委員会が動き出し、全事業の中から14事業(年度により異なる)を抽出し、9月の決算審査で他の事業の審査とは別に、集中審査を行います。その事業に対して「拡大・縮小・継続・その他」を

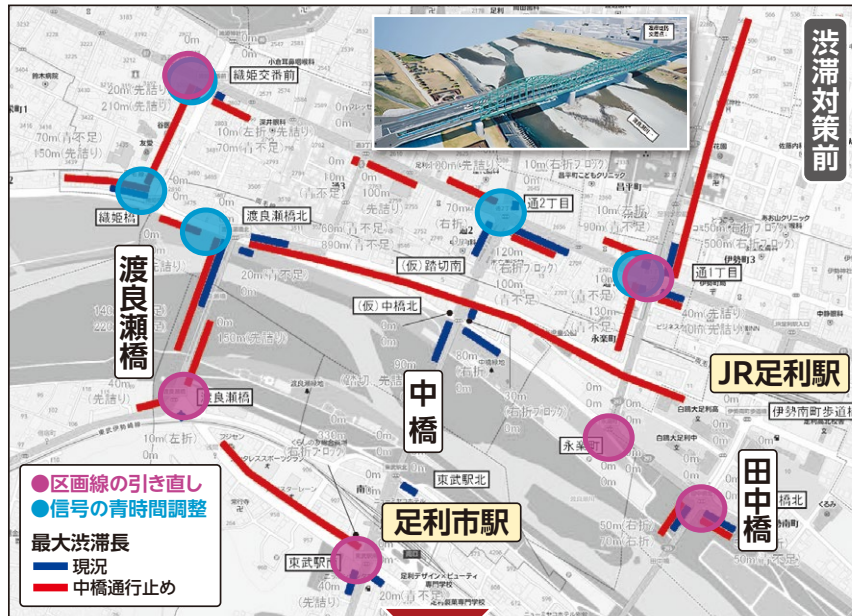
●困りごとのご相談や市政に関するご意見など、お気軽にお寄せください●

足利市議会議員 金子ひろみ

〒326-0053 栃木県足利市伊勢町二丁目6-14
TEL&FAX 0284-42-8747

【プロフィール】●昭和54年足利市伊勢町二丁目生まれ ●相生小学校、第三中学校、栃木県立足利女子高校卒業 ●中央大学商学部経営学科卒業 ●スリランカ、ガーナ、ミャンマーでボランティア活動を行う ●青年海外協力隊として南米ボリビアにて、コーヒー栽培普及・収入向上プロジェクトに携わる ●介護施設で勤務、社会福祉士国家試験に合格 ●平成23年4月 足利市議会議員に初当選 ●平成24年に結婚、二児の母 ●令和5年4月 足利市議会議員に4期目当選

中橋の
詳しい情報は
こちら▶



◎渋滞対策

通行止めに伴い渋滞が予想されます。上記画像の青い線は通行止め前の渋滞、赤い線は通行止め時の渋滞予想です。それに対し、区画線の引き直しや信号の時間調整を行います。それにより、対策後の下の画像のような予想です。

記載した調書を作成し、全委員の意見をまとめた事業評価書を執行部に提出しています。これらと併せて、年度内には来年度の予算を審査する予算委員会と、常任委員会で現年度の予算をチェックしています。

私は、足利市議会では予算・決算審査は丁寧に行っていると思っていましたが、事業の評価を翌年度予算に反映させていく藤枝市に比べると予算・決算審査がそれぞれ単発で終わっていると感じました。今後、議会の機能強化としてこのような取り組みができるよう考えていきたいです。

足利市議会議員 金子ひろみ通信

2024年
市政報告
(vol.20)

【発行元】〒326-0053 栃木県足利市伊勢町二丁目6-14 TEL&FAX 0284-42-8747 討議資料



令和6年は、足利市が大きく変わり始める年であると感じています。その理由は、長年の懸案事項であった中橋の架け替え工事が進み通行止めが始まる事と、建設中だった足利高校の新校舎が出来上がり使用が開始されることです。これまでとは違う人や車の流れとなる中、これまで以上にまちの中や経済活動を大切にしていきます。



令和6年度 6月議会

一般質問ピックアップ

QRコードから動画もご覧いただけます▶

① デジタルの活用とより良い行政サービスについて

①自治体DXと行政運営

金子▶令和2年12月、国は「デジタル社会の実現に向けた改革の基本方針」を決定し、目指すべきデジタル社会のビジョンを示した。令和3年9月のデジタル庁発足後、足利市でもキャッシュレス決済の導入や、新しい公共施設予約管理システムや電子申請システムの整備、教育DX、水道DXなど様々な事業を展開している。市役所内部事務の効率化の取り組みは？

▶全国的に先進的な事例としてGoogleWorkSpaceを活用したシステムを導入したほか、庁内文書の周知方法をメールではなくデジタル掲示板にしたことで業務軽減となった。



ポイント! 足利市では、Microsoftのワードやエクセルから、Googleのドキュメントやスプレッドシートに切り替えました。**5年間で約9,400万円の削減**のほか、資料を共有しながら編集ができる等の業務の効率化が期待されます。

金子▶「誰一人取り残さない。人にやさしいデジタル化」としての取り組みは？

▶これまでスマホ教室などを年間10回開催している。今後は、国のデジタル活用推進補助金を活用して、スマホ講座だけでなく、市で導入したオンライン申請システムの利用の周知もしていく。

②公共施設の貸し出し

金子▶令和6年3月から新しい公共施設予約管理システムを稼働した。スマートフォンでの操作やオンライン決済が可能となり利便性が高まった。しかし、施設により予約可能期間に違いがあり、プラザの文化ホールは

11ヵ月前、会議室は5ヵ月前なのに対し、生涯学習センターは3ヵ月前、公民館は1ヵ月前となっている。予約期間の拡大と、定期的に施設を利用している団体の予約簡素化をしてはどうか。



▶それぞれの施設の設置目的や形態、利用状況も異なるので、今後研究していきたい。

金子▶公民館などの社会教育施設は営利団体等に貸し出しをしていない。文科省から営利活動に関する通知が示され、また、営利団体に貸し出ししている先進自治体もある。本市でも検討してはどうか。

▶民間企業やNPO法人との連携など柔軟な対応を図れるようになった。文科省が民間企業等による公民館活用の事例を示しているの、今後検討していきたい。

私の意見! 一般と営利団体へ別料金を設定したり、営利企業の予約開始を一般より遅くする事で、市民や非営利団体優遇対策をしている自治体がある。少しでも稼働率を上げて収益につながる対応を!

③マイナ保険証

金子▶国が進める医療DXの一環で、現行の保険証が発行されなくなり、マイナバーカード(マイナカード)と一体化した健康保険証である「マイナ保険証」へ移行する日が、2024年の12月2日と示された。現行の保険証廃止後の対応はどうなるのか。マイナカードを持っていない方や、マイナカードを持っているがマイナ保険証に未登録の方はどうなるのか。



▶足利市のマイナカード累計交付枚数は11万3千枚、交付率は80%、マイナ保険証登録率は60%、利用率は9%。12月の廃止を前に、国民健康保険と後期高齢者



ホームページも
ぜひご覧ください。
kanekohiromi.com



Instagram



X (Twitter)



Facebook

SNSはこちらから▶

医療は、例年通り令和6年7月に健康保険証の一斉更新を行い、更新後の令和7年7月まで使用できる。令和7年7月に、マイナカードを持っていない方と同カードを持っていても保険証登録をしていない方に医療機関等で使用できる「資格確認証」を交付する。マイナ保険証登録者には、不具合等に備え「資格情報のお知らせ」を交付する。いずれも交付申請は不要。

金子▶マイナ保険証のメリットは？厚労省は2024年11月時点でのマイナ保険証利用率を50%と定めているが、目標が達成できない場合のペナルティはあるのか。

▶マイナ保険証を利用するメリットは、医療費が20円節約できること、処方された薬や健康診査の結果を治療に役立てたより良い医療が受けられること、高額療養費の限度額認定手続きをしなくても限度額を超える支払いが免除されること。目標未達成のペナルティはない。

私の意見! これまでの保険証が廃止されマイナ保険証に移行するとはいえ、同等の資格確認証が発行されるなど、分かりにくいシステムとなっている。マイナ保険証のメリットと共に、混乱を招かないように周知が必要。

●マイナンバーカードの保険証利用の申込みは、医療機関や薬局の受付にある顔認証付きカードリーダーでもできます!

顔認証付きカードリーダー▶



2 教育行政について

①学校での熱中症対策

金子▶近年、夏は35度以上になる日々が続くこともある。子どもは身長が低い、大人よりも地面の照り返しの

影響を多く受ける。低学年の下校は午後2時半頃で最も暑い時間帯になっている上に、教科書やタブレット端末の入った重いランドセルと水筒や体操着・水着等を持っている。下校時の暑さで体調が悪くなったという話を多く聞く。日傘の使用や水筒の中身の確認の徹底などこれまでの対応とは違う、一歩進んだ対策が必要ではないか?

●持ち帰り荷物を軽くする事や、ランドセルではない軽いリュック等の利用。

●冷やせるタイプのネッククーラー等を学校で冷やしてはどうか。

●こども見守りのまちステッカー掲示場所の共有と、掲示者を増やす取り組みの実施。

●暑さ指数により、無理に下校させず学校待機とする必要があるのではないか。

▶ネッククーラーや日傘の推奨のほか、今年度は「熱中症対策アンバサダー養成講座」の実施や、熱中症警戒情報等をもとに教職員が意識を高めて適切な指導をしていきたい。学校では子供の体調・天候に応じて持ち物を決めており、ランドセルは保護者の判断で決めているものであるが、安全面を第一に考えていきたい。ステッカーの掲示が増えるよう取り組みたい。暑さにより下校時の学校待機を選択している学校もある。



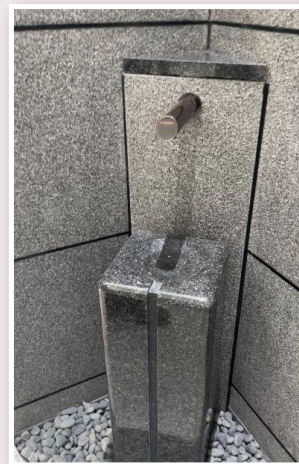
こども見守りのまちステッカー▲

私の意見! こども見守りのまちステッカー掲示者へは、熱中症対策への理解とご協力をお願いするハガキを送付しているため、**掲示者を増やしその情報を学校と家庭で共有する事**、また、規定が無いため学校独自で判断しているため、共通認識が必要と考える。

こぼれ話 新斎場に込めた伝統継承への思い

令和6年9月より、新しい斎場の暫定使用開始となります。栃木県産の木をふんだんに使い温かみのある建物で、天井の高い式場ホールや、膝の痛くなる畳ではなく机と椅子が置かれた待合室、キッズルームや授乳室もあります。私が一番感慨深く感じるのは、火葬炉のある部屋に水道がついていることです。

足利市では火葬の間に炉の前にお水を供える慣習があり、近くに水道が必要ですが、当初の斎場の計画では水道が設置されないことになっていました。公共施設の設備の問題で慣習が継続できなくなるのはあってはならない事と訴え、設置となった経緯があります。その水道が設置されているのを見るたびに、図面をチェックして、気付いて訴えた時のやり取りを思い出します。



◀設置された水道



【最近の取り組み】不登校支援について

現在市内には学校を30日以上欠席した児童生徒数が約300人とされています。様々な事情があり学校に来ることが困難な子どもは年々増加しています。

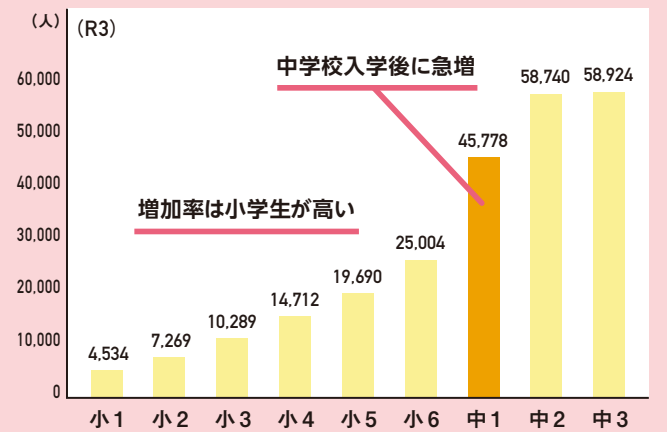
足利市では現在、不登校児童生徒が通える場所として生涯学習センターの中に「学校・家庭教育相談室」があります。不登校や学校や家庭の悩みの相談も受け付けています。毎日子ども達の利用がありますが、市内に1カ所しかないため遠方からの利用には親の送迎が必要だったり、利用者数の増加に伴い場所が手狭になってきているなど課題があります。

2017年に通称「教育機会確保法」が試行され、学びの保障や学校以外の学びの場について明文化されました。そして2023年には「COCOLOプラン」が示され、教室に入れない児童生徒の居場所として学校内に校内教育支援センター(スペシャルサポートルーム)の設置を促進することや、教育支援センター機能の強化などが示されました。子ども1人に1台タブレット端末が支給されている現在では、それを利用して当たり前のようにオンライン授業を受けることができます。『**どこで学ぶかではなく、何を学ぶか**』が重要です。

昨年の私の一般質問の中でやり取りをしましたが、市内に4カ所あるこども館(児童館)でも不登校児童生徒の受け入れや、保護者が話し合える場が開始されました。学校との連携がこれからの課題ですが、問題を1つ1つクリアして居場所を増やしていきたいです。

私自身、不登校の相談を受ける機会は多くあります。子どもと家庭に寄り添った支援を心がけるとともに、スペシャルサポートルームの設置や、民間のフリースクールの設置とそこへ通うときの支援などに取り組んでいきます。

学年別不登校児童生徒数(全国)



市政ピックアップ① 水道インフラの老朽化とAI導入による対策

水道事業は、施設の老朽化に伴う更新需要が増えている中で、少子高齢化に伴い給水収益が減少しています。足利市では古くから水道管の整備が進んでいたこともあり施設の老朽化が課題です。有収率は直近5年間で10%低下し71.4%となり、約90%である全国平均を大きく下回っています。

地下の水道管は、音波探知機などで漏水調査をしますが、掘削してみないと腐食状態が分かりません。そこで、効率的に漏水箇所を特定するため、AI解析を導入しました。今後5年間で有収率を近隣市レベルにする事を目指しています。また、各家庭を回る水道メーター検針員のなり手不足と安定した検針業務の実施も課題です。そこで、スマートメーターの設置と、スマートフォンによる検診システムの構築も進めています。

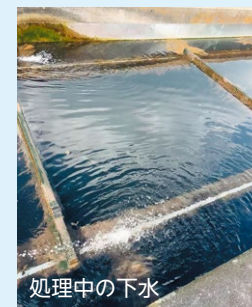
※有収率:市内に送り出す給水量に対して、料金として計上される有収水量の割合。数値が高いほど効率が良く、低いほど漏水が多い。



配水池

●水道事業の新しい取り組みを受け、水道施設を視察しました。

◀今福浄水場では、穴の開いた集水管が地下に埋め込まれており、そこから取った水を消毒し、ポンプで緑町配水場まで上げます。配水池は、深さ3.6mで60m×27mもの大きさで、配水を待つ水は神秘的な雰囲気でした。



処理中の下水

◀利用された水は下水管を流れ、水処理センターに送られます。センターでは、下水のゴミや土砂を取り除いたあと、微生物の働きで浄化処理をして、綺麗になった水を河川に放流しています。現在足利市には浄水場が9ヶ所、配水場が10カ所、処理場が1カ所あります。施設や管路の老朽化が課題ですが、AIなども活用しながら適切な更新をし、大切に使用していきたいです。

